

1. 理事長あいさつ

足腰の強い機動性のある学会を目指して

日本放射線看護学会

理事長 草間 朋子

会員のみなさまそれぞれ新たな抱負を胸に新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。30数年ぶりと伝えられる日本海側を中心とした今冬の豪雪には、自然の脅威を改めて認識させられました。

さて、昨今、看護に関連した「放射線」についてのさまざまな話題が取り上げられており、日本放射線看護学会の役割が問われている時期であることを、会員全員が認識しなければならないと思っております。

一つは、文科省が昨年10月末に「看護学モデルコアカリキュラム」を公表し、その中に、「放射線」が「薬品」と同じレベルで盛り込まれたことです。日本放射線看護学会が、数年前から文科省等に働きかけてきた成果でもあったと思っております。平成31年からの実施に向けて、早急に学会内にWGを立ち上げ、「モデルシラバス」等の検討を行う必要があると考えております。

もう一つの課題は、ICRP（国際放射線防護委員会）2007年勧告、ソウル声明を受けて日本の放射線防護関連法令の改正の作業が放射線審議会において行われていることに関連したものです。具体的には、①水晶体の等価線量限度の引き下げと、②「生殖可能年齢の女性の実効線量限度」に関連した課題です。前者に関しては、水晶体のしきい線量が従来に比べ低くなった（0.5Gy）ことによるもので、限度の引き下げは当然行われなければなりません。看護職に対する実現性のある個人モニタリングのあり方（看護職の誰をモニタリング対象とするか、水晶体の線量測定・評価をどのように行うかなど）をどうしていくかです。これに関しては、本学会は、平成29年度から、日本放射線技術学会等と共同研究を開始しております。後者に関しては、放射線審議会により「女性に特別な限度は不要である」との中間報告（2011年）が既に出されております。若い看護職を数多く抱える看護界としては、看護職に安心して業務を行ってもらうためには、現場の声を、放射線審議会に届け、中間報告の内容を覆す必要があると判断し、急遽、日本看護連盟に全国調査をお願いし、約3000名の看護師の意見を2月16日に放射線審議会に届けました（放射線審議会での検討スケジュールの関係で、時間的な余裕がありませんでしたので、調査に関しては理事長判断で対応させていただきました）。今後、結果がどうなるか、注意深く見守っていく必要があると考えています。事態によっては、日本放射線看護学会からの要望書も必要になるかとも思っております。

日本放射線看護学会は、看護職の放射線に関わる課題については、職能団体である日本看護協会等と協力し、解決に向けての意見を積極的に発信していかなければ、看護界、看護職の意見が反映されないまま事態が進行してしまうことが危惧されます。

日本放射線看護学会は、看護・看護職の放射線防護の課題に関して科学的に対応できる唯一の学会です。社会の動向に敏感になり、タイムリーに情報を収集し、解決できる機動性のある足腰の強い学会活動を目指して、一致団結（看護界にとってはこれが最も大事だと思っています）して課題解決に向けて取り組んでいきましょう。

2. 理事会からのお知らせ（総務）

1) 学会員数

正会員 466名

賛助会員 4社

合計 470

2) 総会報告

平成29年度日本放射線看護学会総会は、9月3日（日）10:00～10:55 名古屋大学豊田講堂において開催されました。同年8月末時点の正会員472名のうち、63名+委任状136名の合計199名の参加でもって総会は成立しました。

総会は学術集會会長の太田理事が議長として進められました。

【主な議事】

(1) 平成28年度活動報告、決算報告、監査結果報告について承認されました。

(2) 平成29年度事業案及び予算案について承認されました。

(3) 一般社団法人 日本放射線看護学会定款（案）について

参加者71名のうち過半数以上の賛同により承認されました。

これまでと変わる点は、以下の通りです。

- ・会員の種類は6種としたこと。正会員を法律上の社員とすること
- ・入会金が不要となること
- ・定時総会は法人2年目から事業年度終了の3ヵ月以内に開催すること
そのため、平成31年度からの学術集會開催時期を早める可能性があること
- ・理事は11人から8人になること
- ・理事および監事は正会員から選出し、総会の決議によって選出すること
評議員の選出は不要となること
- ・理事および監事の選出方法については今後検討し、平成30年度中に選挙を行うこと
- ・設立時の役員について、現役員の任期を平成31年度総会まで延期すること
- ・事業計画及び収支予算は理事会の決議を経て総会に報告となること
- ・事業報告および決算は定時総会で承認を受けること

(4) 学術集會について

第7回日本放射線看護学会学術集會（平成30年度）について、学術集會長の浦田理事より参加要請が述べられました。第8回日本放射線看護学会学術集會（平成31年度）は福島県立医科大学での開催が予定されています。

以上

3) 法人化に向けたスケジュールについて（法人化準備委員会）

法人化準備委員会では、平成28年9月の総会において、平成30年度から法人化することが決定されたことを受けて、法人化に向けた準備を進めてまいりました。

平成29年9月の総会において、「一般社団法人日本放射線看護学会定款」が制定されました。併せて、法人化にあたり、現在の理事および監事の任期を平成30年度末（平成31年3月末）までの1年間延長し、法人化手続き（登記）をすすめることとなりました。

今後の法人化のスケジュールは、以下の通りです。平成30年度中に、理事および監事の選挙を実施する予定です。法人化後は理事の任期は2年間となります。

平成29年9月 平成29年度総会 一般社団法人日本放射線看護学会定款の制定
現役員（理事および監事）の任期を1年間延長する
ことの承認

平成30年2月 現役員に定款への押印

平成30年3月 公証人による定款認証

平成30年4月2日 登記 第1期法人スタート

第1期は現役員で運営（任期1年、平成31年3月31日）

平成30年9月 平成30年度定時総会

（平成30年度内） 理事選挙の実施

平成31年4月 第2期スタート（平成31年4月1日～平成33年3月31日）

新役員による運営

平成31年6月 平成31年度定時総会予定

日本放射線看護学会 法人化準備委員会

草間 朋子委員長、小西 恵美子、桜井 礼子、小山 珠美

3. 各委員会からのお知らせ

1) 学術推進委員会

学術推進委員会は日本放射線看護学会の学術推進を目的とし、関連学会及び団体との連携強化に関する活動や学会および学術集会の活性化・学術推進活動を行っております。

平成29年度の委員の紹介と活動内容について報告いたします。

【委員紹介】

- 委員長：西沢 義子（弘前大学大学院保健学研究科）
委員：野戸 結花（弘前大学大学院保健学研究科）
青木 和恵（静岡県立大学看護学部）
太田 勝正（名古屋大学大学院医学系研究科）
作田 裕美（大阪市立大学大学院看護学研究科）
大森 純子（東北大学大学院医学系研究科）

【活動報告】

日本放射線看護学会学術推進委員会では第5回学術集会から、会員の興味・関心があるテーマを取り上げ、交流集会を開催しています。第2回目は第6回学術集会において「被ばく医療体制と看護職の役割—課題と展望—」というテーマで交流集会を企画しました。この概要は日本放射線看護学会誌第6巻にも掲載されていますが、紙面が限られていましたので詳細に記述することが出来ませんでした。そのため、学術推進委員会活動報告として学会誌掲載内容に追記し、紹介させていただきますので、ニュースレター第3号をご参照ください。

日時：平成29年9月4日（日）11：00～12：30

場所：豊田講堂 第3会場

テーマ：被ばく医療体制と看護職の役割—課題と展望—

発表者：立崎英夫氏：量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所被ばく医療センター

井瀧千恵子氏：弘前大学大学院保健学研究科

折田真紀子氏：長崎大学原爆後障害医療研究所

【お知らせ】

学術推進委員会では教育・研究活動推進のための情報提供や「放射線看護」に関する学術的検討を行っています。また、文部科学省から看護学教育モデル・コア・カリキュラムが提示されたことを踏まえ、今後は看護基礎教育における「放射線看護学」のモデルカリキュラムに関する検討等を行っていきます。学術推進委員会に対する要望事項等は引き続き募集しています。随時受付しておりますので、下記までご連絡願います。

【連絡先】日本放射線看護学会事務局 e-mail:rnsj@kokusaibunken.jp

2) 編集委員会

編集委員会は、学会誌を編集し発刊する組織です。主に、学会員皆様の論文投稿から論文掲載までの期間に関わります。

- 第6巻の学会誌を平成30年3月にオンラインにて公開予定です。（現在、編集作業中）
- これまで論文の投稿期間を定めておりましたが、第7巻の学会誌より、論文の随時受付を開始致します。（平成30年4月開始に向けて投稿システムを整備中）
- 本学会誌の掲載論文は、電子ジャーナルサイト **Medical Online** にも掲載されていますが、今後は電子ジャーナルサイト **J-STAGE** にも掲載予定です。掲載開始時には、再度会員メーリングリストで連絡致します。

3) 広報・渉外委員会

【活動報告】

1. 学会ホームページの管理・更新

- ・ 学会HPの構成の見直し
- ・ HPの管理・更新とその活用

HPのリニューアルにより、HPの「TOPICS」への記事の掲載がより簡便にできるようになりました。会員の皆様にHPを利用して情報発信を行ってまいります。

会員の皆様からの情報提供もお待ちしております。

- ・ 関連する学会・機関のHPとの相互リンクを図る。

2. 渉外活動

- ・ 広報リーフレットを活用し、関連機関等への配布を行い、正会員および賛助会員の募集に力を入れていきたいと思っております。
- ・ 放射線診療、放射線防護等に関連する学会等との連携を図るための渉外活動を行ってまいります。

3. 日本放射線技術学会との共同研究

以下の共同研究を進めている。

平成29年～30年度：学術委員会学術研究班

「放射線診療従事者の不均等被ばく、とくに水晶体の管理に関する実態調査」

以上

4) 国際交流委員会

《世界防災フォーラム 仙台看護セッション発表報告》

2017年11月28日、仙台国際センターにおいて世界防災フォーラム in 仙台看護セッションが開催され、本学会から発表しました。

参加団体は、日本看護系学会協議会、日本災害看護学会、**日本放射線看護学会**、日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本赤十字看護学会の6団体でした。他学会からは、学会の設立目的・時期をメインに、学会で助成した災害看護研究のテーマと助成額などが発表されました。

本学会は一番最初の活動発表で概要は次のとおりです。

- ・発表者：小西恵美子(国際交流委員会)、漆坂真弓(弘前大学)
- ・内容：原子力事故の教訓を踏まえた放射線看護教育として、弘前大での①実践看護師に対する緊急被ばく医療の教育、および②大学院レベルの放射線看護教育について発表しました。
- ・他学会：設立目的・時期をメインに、学会で助成した災害看護研究のテーマと助成額などが報告されました。
- ・質疑応答：フロアから、「日本では放射線・原子力対応が非常に重要、看護全体で力をいれるべき」等の意見があり、本学会から、学会として同じ認識をもっており、学部コアカリキュラムに含める放射線関連項目の提言を含め、看護職・看護学生の放射線教育の充実に尽力している旨を回答しました。なお、学部コアカリキュラムには、当学会の提言がほぼ全面的に採用されています。
- ・特記事項：放射線・原子力災害対応の実働活動は、安全管理・被ばく管理等の責任、防護具・線量計等資材・機器の整備や管理責任等の点から、所属機関で行い、学会としては、これら活動の見える化を支援し、情報を集め知識を集積して政策提言や放射線教育の普及等に活かす方針をとっています。

4. 学術集会について

1) 第6回学術集会の報告

第6回日本放射線看護学会学術集会 開催報告

第6回学術集会長 太田勝正

名古屋大学大学院医学系研究科 教授

本学会は、放射線看護の発展と専門的な活動の質向上に寄与することを目的として平成24年に設立されました。誕生してまだ6年目の学会ですが、高度に発展、普及している放射線診療における看護、そして、この先、少なくとも40年は続く福島第一原子力発電所事故問題に関連した避難住民の方々への対応などに、どのように貢献できるのかを参加者と共に考えることを目指し、「放射線看護が拓く未来」を学術集会テーマとして、平成29年9月2日（土曜）、3日（日曜）に名古屋大学豊田講堂およびシンポジオンにて、第6回学術集を開催させて頂きました。

延べ435名（会員：182名、非会員：253名）の参加者を得て、69題の演題発表（口演35題・示説34題、ただし1件は採択後に取り消し）が行われました。テーマに即した基調講演の他に、シンポジウムとパネルディスカッションにおいては放射線看護の役割と課題を討議し、また、教育講演とミニレクチャー等では、実践活動に資する最新の知見を提供することを目指しました。2日間の会期を通じて、会員の方とともに多くの非会員の看護職の方の参加を得て、各演題、セッション等での活発な質疑応答が行われました。

なお、本大会ではランチョンセミナーに加えて、2日目の日曜日に無料軽食の配布を行いました。休憩コーナーや示説コーナーで飲食しながら気軽な雰囲気で見聞交換や人的ネットワークの構築が行われている様子が垣間見られました。

次は、H30年9月8日（土曜）と9日（日曜）に長崎で、第7回大会が開催されます。今まで以上の多くの会員の方、そして、臨床現場の看護職の方の参加があることを祈って、バトンタッチさせて頂きます。

2) 第7回学術集会のご案内

第7回日本放射線看護学会学術集会のご案内

学術集会長 浦田 秀子

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

このたび、第7回日本放射線看護学会学術集会を2018年9月8日（土）・9日（日）の2日間、長崎大学医学部キャンパスにおいて開催することになりました。長崎での開催は2013年に続き2回目となります。

本学術集会のテーマを「つなぐ つむぐ おりなす 放射線看護学～すべての看護職者の学びの集積から～」としました。

「看護師と放射線との関わりは、自らも被爆しながら被災者をケアした広島長崎の看護師に始まります。」と学会のホームページにあるように、放射線看護がこの地から始まりました。現代の医療において放射線利用は欠かせないものであり、多くの看護職者は日々、放射線診療を受ける対象者と関わっています。そして、東日本大震災後の東京電力福島第一原子力発電所事故においては放射線被ばくや健康影響に関する知識の重要性を痛感いたしました。放射線看護の対象は、放射線診療や地域での放射線災害において被ばくの対象になるすべての人々です。したがって、すべての看護職が放射線看護に関する基本的な知識・技術は必要と言えます。これまでの看護実践および教育・研究の積み重ねが2015年度に高度実践看護師教育課程（専門看護師）「放射線看護分野」の特定および教育課程の認定につながりました。さらに、2019年度から実施される看護学教育モデル・コア・カリキュラムに放射線看護の内容が組み入れられました。そして、放射線に関して豊富な知見・技術を有する関連学問との連携が放射線看護学の基盤を構築し、発展・進化していくものと考えられます。

学術集会のテーマのもと、基調講演、教育講演、特別講演、シンポジウム、交流集会等長崎の特色を活かした内容で鋭意準備を進めております。

今回は第7回で1つの節目を迎えます。放射線看護分野が高度実践看護師教育課程（専門看護師）として認定されたことは、学術的基盤づくりとしての本学会が果たした大きな成果です。72年前の原爆被爆者の看護から始まった放射線看護が、今後さらにエビデンスを蓄積し、放射線看護学の確立を目指すためにもその大きな通過点になればと期待いたします。

1. 会期：2018年9月8日（土）、9日（日）
 2. 会場：長崎大学医学部良順会館、ポンペ会館、医学部記念講堂（坂本キャンパス）
〒852-8523 長崎市坂本 1-12-4
 3. テーマ：つなぐ つむぐ おりなす 放射線看護学
～すべての看護職者の学びの集積から～
 4. 参加費
- | | 事前登録 | 当日参加費 |
|-----|--------|---------|
| 会員 | 8,000円 | 9,000円 |
| 非会員 | 9,000円 | 10,000円 |

5. プログラム

- 会長講演
- プロローグ：テーマ 母の思いをつなぐ
演者 大野洋子
- 基調講演：看護学教育モデル・コア・カリキュラムにおける放射線看護学
演者 草間朋子（日本放射線看護学会理事長、東京医療保健大学）
- 特別講演：放射線災害と向き合って
演者 山下俊一（長崎大学原爆後障害医療研究所）
- 教育講演：放射線量を読み解き、人体への健康影響を理解する
演者 松田尚樹（長崎大学原爆後障害医療研究所）
- シンポジウム1：多職種連携でつむぐ、放射線看護学
- シンポジウム2：共同大学院の学びからおりなす放射線看護学～災害被ばく医療科学共同専攻
攻修了生の将来へのビジョン～
- 国際シンポジウム：放射線看護を世界へ発信する
- 研究発表（口演・示説）
- 交流集会
- ランチョンセミナー

6. 演題募集期間 2018年4月2日～2018年5月31日

7. 懇親会

日時 2018年9月8日（土）18:00～
場所 ガーデンテラス長崎ホテル&リゾート
長崎市秋月町2-3

8. 事務局

- 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科災害・被ばく医療科学共同専攻
〒852-8523 長崎市坂本1-12-4 TEL・FAX 095-819-8515
E-mail rnsj7.nagasaki@gmail.com
- 日本放射線看護学会学術集会ヘルプデスク rnsj-desk@bunken.co.jp

9. ホームページ <http://www.rnsj7.umin.ne.jp>

5. 活動報告

○学術推進委員会からの報告

第6回日本放射線看護学会学術集会

交流集会2「被ばく医療体制と看護職の役割—課題と展望—」

日 時：平成29年9月4日（日）11：00～12：30

場 所：豊田講堂 小会議室（第3会場）

【発表者】

立崎英夫：量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所被ばく医療センター

井瀧千恵子：弘前大学大学院保健学研究科

折田真紀子：長崎大学原爆後障害医療研究所

原子力規制庁では新たな被ばく医療体制として原子力災害拠点病院、原子力災害医療協力機関、高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センターを策定し、それぞれの役割と要件を決めています。本交流集会では被ばく医療体制に関する最新情報を得るとともに、看護職の役割について考えることにしました。

立崎英夫氏（量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所被ばく医療センター）からは、「新しい原子力災害医療体制」についてご発表いただきました。原子力災害拠点病院は災害拠点病院が原則であり、その役割は汚染や被ばくを伴う傷病者の診療や地域内関係者に対する研修等を担っています。現在は原子炉施設等立地道府県等に数箇所ずつ指定されています。また、原子力災害医療協力機関の役割は、傷病はないが被ばくしている者への検査・除染、救護所等における健康管理を行うとともに原子力災害拠点病院への協力を行います。国が指定する高度被ばく医療支援センター（5施設）は診療機能はもちろん、原子力災害拠点病院等との医療連携、教育研修・訓練の実施、関係機関への支援体制等の役割があります。原子力災害医療・総合支援センター（4施設）も国が指定しますが、原子力災害医療派遣チームの派遣調整の役割があることが述べられました。

井瀧千恵子氏（弘前大学大学院保健学研究科）からは「青森県における原子力災害ネットワーク構築の現状と課題」についてご発表いただきました。原発立地県である青森県でもネットワーク構築は十分とは言えない状況であること、ネットワーク構築には時間がかかり非常に難しいが、少しずつ拡大していくことの重要さと被ばく医療体制において看護職の視点から発言するような活動も重要であることが述べられました。「訓練でできないことは実際にはできない」ことを指摘し、繰り返しの訓練の必要性と人材育成の重要性を強調されました。

折田真紀子氏（長崎大学原爆後障害医療研究所）からは福島第一原子力発電所事故後から川内村や富岡町において住民の傍に寄り添った活動を展開してきた豊富な経験に基づき、「看護職が行うリスクコミュニケーション」について事例を交えてご発表いただきました。特に帰還が始まった現在では住民の疑問に真摯に向き合い、情報共有を続けていくことが重要であることを強調していました。

参加者との意見交換では、被ばく医療体制の最新情報の入手方法に関する質問や、被ばく医療機関の職員には最低限の知識を獲得してもらうために、院内で定期的な研修会を開催して知識・技術の普及に努めていることや看護職として病院全体で実効性のあるマニュアル作りを行っていることなど各施設での取り組みについて紹介がありました。看護基礎教育では放射線の基礎知識



と放射線防護の3原則を中心に e-learning を取り入れながら教育を行っているが、確実な知識獲得のためには演習なども必要であることが述べられました。

最後に看護職への期待として、立崎氏からは被ばく、汚染患者の受け入れ（除染）と同様に、入院後のケアが重要。患者に最も身近で接しているのは看護師であり、患者の訴えや思いを聞けるのは看護師。放射線を恐れず、患者への疑問に対して説明するためには正しい知識が必要であることが述べられました。井瀧氏からは被ばく医療に取り組んでいる看護師は少ないこと、受け入れ機関の看護職は最低限の正しい知識を持ち、放射線と向き合う姿勢が求められるとともに多職種と連携をして欲しいことが述べられました。折田氏からは原子力災害時には住民を理解している看護職が緊急時に即座に動けるように、普段から被ばく医療に参画し連携していくことが求められることが強調されました。

今回の交流集会を通して、被ばく医療体制に関する最新情報の共有が求められるとともに、それぞれの実践を通して将来的には「被ばく医療における看護」の明確化が図られることを期待したい。

交流集会2 アンケート結果

参加者 49名 (司会・演者を除く)

アンケート回収 35部

1. 職種

看護師	23
助産師	0
保健師	3
教員	8
その他	1

2. 資格

専門看護師	0	がん放射線療法看護 CN 3、がん性疼痛看護 CN 1 INE・IVR 看護師 1、診療放射線技師 1
認定看護師	4	
その他	7	
なし	28	

3. 臨床看護経験年数

14.9±9.5 (1-45) 年

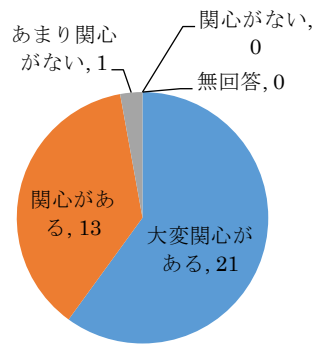
4. 被ばく医療・被ばく医療看護に携わった経験

なし	19
あり	14
無回答	2

「あり」の内容

- 教育・復興期の支援
- 被ばく医療に関する看護師の教育
- 放射線科看護(IVR)、RI、治療、CT、透視、カテ室
- 原発事故を想定した院内マニュアル整備、訓練の実施
- 原子力災害拠点病院に指定され、研修の受講、院内の被ばく訓練等の実施
- 被ばく事故での線量測定
- JAEA 大洗被ばく
- 訓練のみ
- 被災地の復興に関わっている

5. 交流集会「被ばく医療体制と看護師の役割」の内容について



6. 交流集会の内容への意見・感想

- ✓ 立崎先生の最新の情報、井瀧先生の原子力災害ネットワークの構築、折田先生のより住民に近い立場からのお話しと盛り沢山でしたが、色々なことを知ることができ良かったです。ありがとうございました。
- ✓ 他施設での取り組みが知れて良かったです。
- ✓ 体制から実際の住民の関わりと、大変貴重な内容であった。
- ✓ 栃木県の病院です。福島の大変な災害があった時、被ばくした患者を受け入れるのか問題となり、検討したことを覚えています。医療者がどう対応したらいいのかばかり考え、「患者を救う」倫理的に考えられていたのか、震災に対する意識が薄れる前に、対策、対応策を自分の職場でも取り入れられるようにしていく。
- ✓ 被ばく医療において患者の受入れ・入院となった際に、看護をする上でのベースとなるマニュアル等があれば、拠点病院等でも安心できるのではないかと考えています。
- ✓ 大変興味深いお話しを聞くことができました。
- ✓ 井瀧先生のご発表の中の「訓練でできないことは実際にはできない」の言葉が改めて訓練の内容の重要性を考えさせられました。訓練内容を少しずつ考えながら工夫していますが、一度じっくり考えなければいけないと思いました。先生方のご指導を受けながら作っていきたいと思いました。
- ✓ 関西出身です。関西では被ばく医療に関する話題があまりなく、とても勉強になりました。
- ✓ 被ばく医療に携わる機会がなさそうなので興味がわきませんでした。申し訳ありません。
- ✓ 各々発表される内容、氏名を冊子に明らかにしておいて欲しかった。これがわかれば、もっとたくさんの方が参加されたのではないのでしょうか？
- ✓ 時間への配慮を。ランチョンと重なるのは残念です。
- ✓ 急性期の被ばく医療の実際、トリアージ、重症度の判断、アセスメント

7. 学術推進委員会企画への要望

- ✓ 治療、RI患者と病棟の連携方法、リニアック、IVR後の被ばく量に伴う看護、検査・治療中の災害時の対応マニュアル
- ✓ 放射線測定機などを用いた実習、雑誌の発行も
- ✓ 被ばく医療のシミュレーション教育の実施について（教育に向けた準備や方法、内容等）

【編集後記】

皆様からのご意見や情報をお待ちしております。

広報・渉外委員会（委員 太田、桜井、小山）